

令和2年度釜石商工会議所経営発達支援計画評価表

令和3年 6月 3日

【総合評価】	A: 概ね目標に達したと認められる	B: 継続して取り組むべきと認められる
	C: 改善が必要と認められる	D: 見直し、廃止を検討すべきと認められる

項目	実施概要	目標	実績	自己評価	自己評価コメント	総合評価
I. 経営発達支援事業の内容						
1. 地域の経済動向調査に関すること				総合A		総合A
・ 地域経営動向調査	小売業・サービス業および製造業等の事業者へ、環境変化に関するヒアリングを行い、個別の課題について調査する。	1回	1回	A	小規模事業者(100事業者)に対して、経営の状況についてアンケート調査(売上高、経常利益、市場環境、事業展開等)を実施した。売上高が減少、市場が縮小しているとの回答が多かったことから、本事業2.以降の事業について十分に取り組む必要がある。	A
・ 地域経済構造分析	地域経済分析システム(RESAS)等を活用し、地域経済循環マップ、産業構造マップ、まちづくりマップなどを調査し、地域の経済構造を把握する。	1回	1回	A	RESASを活用して、国の統計データによって、地域の経済循環分析を実施した。地域の特徴として、2015年の釜石市総生産から、震災復旧、復興の需要、地域の産業の特徴、消費が流出していることが確認できることから、本事業2.以降の事業について十分に取り組む必要がある。	A
2. 経営状況の分析に関すること				総合B		総合B
・ 事業者の掘り起こし ・ 経営状況分析セミナーの開催 ・ 定量/財務分析 ・ 定性/非財務分析	経営状況分析を行う事業者の掘り起こしのため、経営指導員等会議で支援候補者名簿を作成し、全員で巡回する。経営状況分析セミナーを開催し、簡易分析を実施する。さらに、意欲の高い事業者や重い経営課題を抱える事業者には詳細分析を行い、担当者を配置してヒアリングを実施、問題、課題、事業機会や活かすべき強みを把握して経営状況の分析を実施する。分析結果は、事業計画策定に活用する。また、経営基幹システムの活用等により、クラウドでデータベース化、内部共有し、事例研究に活用して支援力向上につなげる。	①セミナー開催 6回 ②簡易分析件数 50件 ③詳細分析件数 30件	①セミナー開催 0回 ②簡易分析件数 63回 ③詳細分析件数 63件	C A A	経営指導員等会議を開催し、事業者の掘り起こしに努めたが、新型コロナウイルスの影響から一堂に会して行う経営状況分析セミナーの開催は断念した。オンラインでの開催を検討したが、操作や理解度について効果的ではないと判断して実施しなかった。ただし、個別相談者等で経営状況分析(簡易63件、詳細63件)を実施し、事業計画の策定に活用することが出来た。分析結果については、昨年度から導入した経営基幹システムを活用(一部は除く)し、データを蓄積させ、内部で情報共有に努めた。	C A A
3. 事業計画策定支援に関すること				総合B		総合B
・ 事業計画策定セミナーの開催	経営状況分析を行った事業者を対象とした、事業計画策定セミナーを開催し、事業計画策定を支援する。事業者には経営指導員等担当者を配置し、策定した事業計画は、法定経営指導員を交えた三者面談においてブラッシュアップをする。実効性、実現可能性の高い事業計画策定を支援するため、支援先を3段階(重点支援先、強化支援先、定期支援先)に設定する。特に集中的に支援する重点支援先については、売上向上、利益確保の目標を達成するため、質の高い事業計画策定を目指す。	①セミナー 3回	①セミナー 0回	C	新型コロナウイルスの影響により、事業計画策定セミナーの開催は断念した。オンラインでの開催を検討したが、操作や理解度について効果的ではないと判断して実施しなかった。ただし、環境分析を行うことで事業計画の策定につなげて、63者が事業計画を策定した。この計画をもとに、持続化補助金やものづくり補助金の計画策定につながった。	C
・ 事業計画の策定		②計画策定件数 24事業者	②計画策定件数 63事業者	A		A

項目	実施概要	目標	実績	自己評価	自己評価コメント	総合評価
4. 事業計画策定後の実施支援に関すること				総合A		総合A
・ 事業計画策定後のモニタリング、フォローアップ	事業計画を策定した全ての事業者を対象として、経営指導員等会議で定めた3段階の支援頻度に応じた定期的な巡回訪問等を実施、計画の進捗状況をフォローアップし、モニタリングを行う。定期的なモニタリングを行うことにより、経営者の常なる思考をアシストし、計画を起点とした行動の定着を目指す。	①フォローアップ対象者数 24事業者	①フォローアップ対象者数 63事業者	A	経営状況分析、事業計画策定を通じて取り組んだ結果、営業損失体質を改善、後継者候補が取り組むことで、販路開拓や事業承継計画につながった。環境分析から計画策定、実行及び実行後まで一貫した支援の成果が出てきている。	A
		②フォローアップ頻度 104回	②フォローアップ頻度 334回	A		A
		③売上増加事業者数 4事業者	③売上増加事業者数 12事業者	A		A
		④利益率増加事業者数 2事業者	④利益率増加事業者数 12事業者	A		A
5. 需要動向調査に関すること				総合B		総合B
・ 自店舗、アンテナショップを活用したニーズ調査(BtoC)	飲食店、食品製造分野を中心とした新商品、改良商品の販路開拓につなげるため、自店舗、アンテナショップ等を活用して顧客ニーズを調査、分析する。	①調査対象事業者 4事業者	①調査対象事業者 6事業者	B	新型コロナウイルスの影響、感染防止拡大の観点から、店舗に向いて顧客より直接調査は行わなかった。一方で当所で実施した飲食店のデリバリー事業を活用して、Googleフォームによって非接触での顧客からの調査を実施、メニュー検討等に提供した。	B
・ 展示商談会でのバイヤーニーズ調査(BtoB)	製造業を中止とした商品の提供方法、素材や加工法などの工夫により、販路開拓につなげるため、展示商談会等を活用して、バイヤー等の要望や感想を調査、分析する。	①調査対象事業者 4事業者	①調査対象事業者 0事業者	C	新型コロナウイルスの影響、感染防止拡大の観点から、全国的に展示会等が中止・延期される等、出展環境が整わずに出展を断念した。	C
6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること				総合C		総合C
・ テスト販売・展示販売会事業 (BtoC)	飲食店、食品製造分野を中心とした新商品、改良商品の販路開拓につなげるため、自店舗、「いわて銀河プラザ」等を活用して、調査・分析する。調査結果は事業者へフィードバックし、事業計画に反映させ、ターゲット設定の検証、ニーズに基づくマーケットインの事業展開を目指す。	①テスト販売・展示販売会出展事業者 4事業者	①テスト販売・展示販売会出展事業者 1事業者	C	コロナ禍、消費地でいうテスト販売で、現地の感染状況を注視し、出展者の意向も踏まえ、感染対策に考慮して1事業者のみ日程を1日に短縮して実施した。そのため目標売上高には達しなかったが、商品は完売して顧客からの反応も得ることが出来て良い成果となった。	C
		②テスト販売・展示販売会売上(額/者) 5万円	②テスト販売・展示販売会売上(額/者) 4万円	B		B
・ 展示・商談会事業(BtoB)	製造業を中心とした商品の提供方法、素材や加工法などの工夫により、販路開拓につなげるため、展示商談会等を活用して調査・分析する。調査結果は事業者へフィードバックし、事業計画に反映させ、ターゲット設定の検証、マーケットインの事業展開を目指す。	①展示・商談会出展事業者 4事業者	①展示・商談会出展事業者 0事業者	C	新型コロナウイルスの影響、感染拡大防止の観点から、展示会等が中止・延期されたことから出展を断念した。	C
		②展示・商談会成約件(数/者) 4件	②展示・商談会成約件(数/者) 0件	C		C
		③プレスリリース・PR支援事業者数 4件	③プレスリリース・PR支援事業者数 0件	C		C
II. 地域経済の活性化に資する取組み						
1. 地域経済の活性化に資する取組み				総合C		総合C
・ 地域経済活性化懇談会	県、市等と定期的に懇談会を開催し、地域経済の活性化に関する意見交換、情報共有をすることにより、支援協力・連携につなげる。	2回	0回	C	新型コロナウイルスの影響により、大人数で集まることを回避し、開催を見送った。	C
・ 商業サービス業情報交換会	県、市、商店街振興組合、商店会等と定期的に情報交換会を開催し、今後の地域商業・サービス業の目指す方向性を意見交換を通じて共有する機会とする。	1回	0回	C	新型コロナウイルスの影響により、大人数で集まることを回避し、開催を見送った。	C
・ 創業ネットワーク懇談会	県、市、市内メディアと定期的イ懇談会を開催し、創業促進の情報交換の機会とする。	1回	0回	C	新型コロナウイルスの影響により、大人数で集まることを回避し、開催を見送った。	C

項目	実施概要	目標	実績	自己評価	自己評価コメント	総合評価
Ⅲ 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取り組み						
1. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること				総合C		総合C
・ 県内商工会議所経営支援情報交換会	県内商工会議所内で定期的に開催する情報交換会に出席して情報交換を行う。	2回	1回	B	新型コロナウイルスの影響により、1回のみ開催であった。地域の情勢、各商工会議所の経営支援策等について情報交換を行った。	B
・ 東北六県商工会議所中小企業相談所長会議	東北六県商工会議所内で定期的に開催する情報交換会に出席して情報交換を行う。	1回	0回	C	新型コロナウイルスの影響により開催されなかった。	C
・ 小規模事業者経営改善資金貸付推薦団体連絡協議会	日本政策金融公庫が管轄地域内の商工会・商工会議所と定期的に開催する協議会に出席して情報交換を行う。	2回	0回	C	新型コロナウイルスの影響により開催されなかった。	C
・ 金融懇談会	市内の金融機関・自治体と懇談会を開催し、情報交換を行う。	1回	0回	C	新型コロナウイルスの影響により開催を見送った。オンラインでの開催を検討したが、金融機関とのオンラインでの開催にはセキュリティ等のハードルが非常に高く、環境整備を十分に行わなければ実施できないことが分かった。	C
・ 岩手県事業承継ネットワーク会議	盛岡商工会議所が事業承継に関連する機関と定期的に開催する情報交換会に出席して情報交換を行う。	2回	0回	C	新型コロナウイルスの影響により開催されなかった。	C
2. 経営指導員等の資質向上等に関すること				総合B		総合B
・ 個人の支援能力向上OFF-JTの仕組み	月1回内部研修を開催し、経営戦略やマーケティング等に関する知識の習得や業種特性への対応、事例研究など行う。また、経営指導員等の能力や階層段階に合わせて外部研修を受講する機会を提供する。	数値設定なし		C	コロナ禍において、年間を通じて感染症という不測事象への対応に終始したことから、十分に実施出来なかった。また、外部の研修等について、会場が東京での研修は、内部で出席を見合わせることにした。	C
・ 全体での支援能力向上OJTの仕組み	中堅経営指導員等育成のため、外部専門家、法定経営指導員等との同行訪問を通じて支援力向上に取り組む。また、個人の個性を活かした役割を与え、能力を発揮出来るチームビルディングに努める。	数値設定なし		B	コロナ禍において、年間を通じて感染症という不測事象への対応に終始したことから、十分に実施出来なかった。	B
・ OJT実施者育成の仕組み	OJT実施者は必要な知識や能力の向上に努め、実施能力を磨き、人材育成、支援力を高める仕組みの構築に努める。	数値設定なし		B	外部の研修等では、会場が東京での研修は、内部で出席を見合わせることにして、十分に出来なかった。	B
・ 全体での支援ノウハウを共有する仕組み	経営基幹システムを活用し、事業者状況の可視化、相互共有することにより、蓄積された仕組みを構築する。	数値設定なし		B	昨年度から導入した経営基幹システムを活用(一部は除く)し、データを蓄積させ、内部で情報共有に務めた。	B
3. 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関すること				総合B		総合B
・ 評価会議の開催	経営発達支援事業の実施進捗状況について評価・見直しを行う評価会議を定期的に開催する。	2回	1回	B	新型コロナウイルスの影響により、持ち回りで1回のみ開催した。	B